

て短かく云ならはせし也。○中略

江戸にて濱側を川岸と云ふ、川岸の略語勿論なり、大坂にて川岸とも云ふ、是略語にて少し異りたる也、京に町と呼ぶ所多くて、丁と唱ゆる所すくなし、江戸は丁といふ方多くて、町と呼ぶは少しなし、大坂は町と丁と相半なるべし、江戸にて町並よき所にていはば、駿河丁、白銀丁、大傳馬丁、石丁、小田原丁、瀬戸物丁、本船丁、伊勢丁、堺丁、葺屋丁、尾張丁、木挽丁などとして、丁と呼ぶ方多し、室町、田町、田原まち、麴町など、町と呼ぶ所少からねど、町と云より丁と云方開語に走るゆゑ多しとしるべし、京にて麴屋丁、お旅丁、宮川丁、先斗丁と據所なきを丁と呼び、跡は町と呼方多きと云るべし、大坂は半分宛取合せたれば改いはず、扱江戸で日本橋と走り、大坂にて日本橋と町嚙にいふ、江戸は短かく詰て云を是とする所なれば、日本橋通と云を、また略して通と計りにて通用させ、通三丁目三丁目と呼來れり、諸事ケ様に詰ていふ土地なるゆゑ、京攝者の愚痴なる詞に根から葉からどふもこふも腹が立てく、忌々敷て、怪體屎が悪ふて腸が熱くり返つてなることぢやないなどと、長たらしく詞をつゞけていへば直に口眞似をして笑はるゝこと也。○下略

名所

〔東海道名所記〕淺草には觀音おはします、貴賤群聚してあゆみをはこぶ。○中略、淺草より丑寅のかた半里計ゆきて、角田川あり、この川に都鳥あり。○中略、それより東叡山しの輪津が池をめぐり見る、池の中には辨才天あり、東叡山の中には、東照權現の御社あり。○中略、春は並木の櫻花、さきつづく枝々、吉野はつせの名所にもこえたり、山の上より見おろせば、しのわづが池は、目のした也、南海はれて安房上總も手にとる計に見え渡れり、江戸の城よりは長にあたれば、都の比叡になぞらへ、東叡の名をあらはし、鬼門をまもる山とせり。○中略、これより布麻、巽のかた半里ばかりに、愛宕山あり、これは勝軍地藏と申て、武家殊更にあがめたてまつる、いつの比か、京のあたごを遠江國なるこ坂に勸請し、それより駿河の國宇津のやにうつし、又この所にうつし奉りける、此山